

海南高等学校 大成校舎

実施日時	令和元年 11月 15日 (金)
参加者	生徒156名、教職員17名、地域住民等9名 計182名
実施内容	炊き出し・配膳訓練、簡易担架作成訓練、消火器操作訓練、防災学習 等

ねらい

- 1、頻発する自然災害に対する知識や心構えについての学習を行う。
- 2、日常生活を通しての減災に対する実践的な態度を育成する。
- 3、災害後に必要とされる行動及び共同作業のスキルを習得させる。
- 4、これらを通して災害に対する「自助」「共助」「公助」について3年間を通して総合的な学習を行う。

主なプログラム

- 1 年：大地震により本校舎でけが人が出たり、一時的に避難所的な役割を果たさなくてはならなくなった場合を想定した訓練を実施。
テント設営、簡易担架作成体験、消火器体験、炊き出し・配膳体験
 - 2 年：外部講師による講義「地震が発生したら、どう対応するか」を受講し、和歌山で想定される地震の揺れと被害について学ぶ。地震や津波の際の避難や対応について学ぶ。
 - 3 年：外部講師による講座「L型家具固定講座」を受講し、減災について学ぶ。
- 全学年：起震車による地震体験、アルファ米等の試食

概要

- 1、11：35～12：25
各学年に分かれてプログラムを実施
- 2、12：25～13：00
起震車による地震体験、アルファ米等の試食

参加者感想文

- ・防災スクールを経験して、災害が起こった場合、私たちでも活動できることをしなくてはならないと感じた。
- ・炊き出しや配膳を経験できてよかったけど、緊急時には準備もないから大変だろうと思った。
- ・高校生でもできることがたくさんあるとわかった。
- ・大地震はいつ起こるかかわからないから、常に災害に備えなくてはならないと思った。

成果と課題

【成果】例年、消防署員の協力を得て、1年生全員が3月にAEDの使用を含む心肺蘇生方法などを学んでいる。今年度はその講習に加え、全学年で防災スクールを行った。あわせて外部講師に地震・津波による災害について講話をしてもらい、生徒自らが自分の命を守り、さらに家族や地域で主体的に活動していくことの大切さを学ぶことができたと感じている。

【課題】今後は、防災スクールを、地元自治会との連絡をとり、地域との連携をより深めた取り組みとしたい。



簡易担架作成体験



消火器体験



L型家具固定講座



起震車による地震体験